

評価対象	羅針盤		方 策	点検・評価		達成度	達成状況のまとめ及び次年度の課題	学校関係者評価
	評価項目	具体的数値項目		自己評価	外部アンケート等			
I 特色ある学校づくりに努めていますか。	1 特色ある教育活動を行っていますか。	○各教育活動に満足している生徒が80%以上である。 ○自分の学校が好きだと感じている生徒が80%以上である。 ○授業の質の高さに、満足している生徒が80%以上である。	○学校行事や授業について各分掌・各課において見直しや検討をし、内容の充実と改善を進める。					
		○SSH参加生徒の80%以上がその事業内容に満足している。	○各教科・科目で、主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業の研究と導入に取り組む。					
		○校訓や教育目標が生徒に理解されるように努めていますか。	○全校体制でSSH事業に取り組み、生徒の多面的思考力と自己調整能力、挑戦し失敗から学ぼうとする態度を育成する取組を充実させると共に、その活動内容に関する広報活動を充実させる。					
II 生徒の意欲的な学習活動について適切な指導をしていますか。	4 生徒の実態に応じた指導を行っていますか。	○校訓や教育目標を理解して、学校生活を送っている生徒や保護者が80%以上である。	○学校通信や学年通信、保護者集会等で教育目標を積極的に提示し具現化する。					
		○授業改善のための授業公開や授業研究を各学年、年2回以上実施している。	○「総合的な探究の時間」において、生徒が主体的に活動できるように課題研究すろくを中心とした課題研究プログラムを実施する。R8年度は過去2年で行ったプログラムの大幅なアップデートの効果を検証し、今後の改善の方向性を見定める。					
		○進路希望実現に向けた学習指導に、生徒の80%以上が満足している。	○授業アンケートを充実させ、生徒のニーズを把握すると同時に、難関大入試に対応した授業の充実を図る。					
III 生徒の充実した学校生活について適切な指導をしていますか。	5 生徒は確かな学力を身に付けていますか。	○学習への達成感・満足感を持っている生徒が80%以上である。	○平常課外補習、長期休業中の講座等をさらに充実させる。					
		○学習内容の定着を図り、家庭での1日当たりの平均学習時間が3時間以上である。	○本校の研修テーマに沿った研究授業・授業研究を実施し、授業改善を図る。					
		○職員会議や学年会議等において、生徒に関する情報交換を月に2回以上行っている。	○教科間の横の連携のとれた課題を課し家庭学習の定着を図る。 ○学習内容の定着を図るために、学習量の調査や点検、反省を行う。					
IV 生徒の主体的な進路選択について適切な指導をしていますか。	6 組織的・継続的な指導を行っていますか。	○授業、学校行事、生徒会活動・部活動等が充実していると評価する生徒が80%以上である。	○学年会議、運営委員会、拡大教育相談会議等で、定期的に生徒の情報交換を行い、重要な情報については職員会議等の場を通じて全職員の共通理解を図る。					
		○学校のいじめの防止や早期発見に向けた取組が充実していると評価する生徒が80%以上である。	○生徒がエージェンシーを発揮し、企画運営をする環境作りに努める。 ○部活動・生徒会活動の振興のための環境整備をする。					
		○家庭と連携をとりながら、生徒の怠慢による遅刻をなくし、1日の平均遅刻者は全体の2%以下である。	○生徒会や生活委員会を中心に主体的にいじめ防止の啓発活動に取り組む。また、二者面談やアンケートとともに、平常から生徒が職員に気軽に相談できる体制を作り、いじめの防止、いじめの早期発見に努める。いじめには組織的に対応する。学校の取組について保護者にも周知する。					
V 開かれた学校づくりに努めていますか。	7 学校はいじめの防止や早期発見に向けた取組を積極的に行っていますか。	○「自己の生き方」と「将来の職業」との関連を幅広く考えさせる活動を実施し、進路実現に向けて積極的に取り組んでいる生徒が90%以上である。	○原則として遅刻が月5回を超える生徒に対しては段階的に指導を継続し面談、保護者連絡等を徹底させる。					
		○「あいさつ」を活発に交わせる校内の雰囲気醸成し、服装やあいさつについて生徒の意識を向上させる。 ○服装や頭髪の乱れがないか常時全職員で確認し乱れがあれば即時指導する。	○3年間を見通した進路年間計画を踏まえ、LHR、「総合的な探究の時間」、進路講演会等により、進路情報を提供する。					
		○「自己の生き方」と「将来の職業」との関連を幅広く考えさせる活動を実施し、進路実現に向けて積極的に取り組んでいる生徒が90%以上である。	○学年に応じた面談プログラムを計画し、二者、三者面談をきめ細かく実施する。					
VI 教育デジタル化に努めていますか。	9 計画的な指導を行っていますか。	○進路通信や学年通信等を通じて、年6回以上、学年に応じた進路情報を生徒や保護者に提供する。	○進路指導部による進路通信を発行し、情報を生徒、保護者に提供する。 ○各通信については、必要に応じて一斉メールで配信し、保護者に周知を図る。					
		○「自己の生き方」と「将来の職業」との関連を幅広く考えさせる活動を実施し、進路実現に向けて積極的に取り組んでいる生徒が90%以上である。	○地域の人、保護者、卒業生、大学関係者等を講師として積極的に活用する。 ○オープンキャンパスへの参加や大学情報を入手するためのインターネットの活用を推進する。 ○模試や各種統計資料により生徒の学力分析を行い、課題を明確化する。					
		○「自己の生き方」と「将来の職業」との関連を幅広く考えさせる活動を実施し、進路実現に向けて積極的に取り組んでいる生徒が90%以上である。	○学校評議員会、SSH公開発表会の日程に合わせて、「授業公開」を行う。					
VII 教育デジタル化に努めていますか。	11 家庭、地域社会に積極的に情報発信をしていますか。	○学校の教育活動を家庭や地域に理解してもらうために「学校公開」を年2回実施する。	○個人情報に配慮しながら、学校行事や部活動の様子、進路情報等最新の情報を学校ホームページを活用し、地域へ発信する。 ○学年の特長や取組状況、行事等の様子を随時情報発信する。					
		○学校のホームページを随時更新し、最新情報を提供し、HPに関する保護者の満足度が80%以上である。 ○各学年が学年通信を各学期3回以上発行する。	○進路講演会や「キャリア」に関して、保護者や地域社会の方の講演を実施する。また同窓生による講演会を計画する。					
		○保護者や地域社会の方、同窓生を講師にした講演会などを年3回実施する。	○授業、進路学習、行事等で積極的に活用する。					
VIII 教育デジタル化に努めていますか。	12 家庭、地域社会の教育力を活用していますか。	○生徒が学習用端末を毎週利用している。	○講演会や研修会等に参加するよう指導する。また、各種行事の動画配信を計画する。					
		○生徒のオンラインによる交流や情報発信を年5回以上実施している。	○ICT機器を使ったことがある授業が90%以上である。					
		○ICT機器を使ったことがある授業が90%以上である。	○保護者への通知等にメールやHP等を積極的に活用する。					
IX 教育デジタル化に努めていますか。	13 ICTを活用した指導を行っていますか。	○オンラインによる通知の割合が80%以上である。	○各種調査に「アンケート」等を活用する。					
		○オンラインでのアンケートを年5回以上実施している。	○学期始めや感染症等の流行時に、ぐんまスクールネットメール連絡網の利用を適宜周知する。					
		○オンラインによる欠席連絡の利用者の割合が80%以上である。	○校内LANや「無線LAN」を利用して「無線LAN」化を推進する。					
X 教育デジタル化に努めていますか。	14 ICTを活用した業務改善を行っていますか。	○オンラインの職員会議等を9回以上実施している。						